



庫文閣内	
二〇三	和
函	
架	
内閣文庫	
番號	和 27788
冊數	16 ( 5 )
函號	203 59



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

狭衣巻第二之上

物さひの花乃こまきまさらして汗かく道の冬も  
とつ川まきともあへあつらもあめの中ふりあつた  
おのりとのさひがさきとちやくらふやあはさうと  
ひもよちとよびのれとてわらひつやあはれが  
そくあつりこびり

いぬのわぶまらこのさうさう(おれり)とて  
こみまき一通まきのあきまきしうゆあつた  
きやまごんまきとやかんし一はち法あふあもあまの  
ん花をし法あやあつたあつとくしうあつた  
まきあふあつたあきまきとてあつたあつたあ

明治十二年購求



けりはれみちちるうきをほりも成るげそふ  
 らぬちりちりめのちりちりあけりひはば  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 まあちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちりちりちりちり

あつちのせんざい... ちの通 季子がまゝあつちのまはけりやうくと縁でのね  
まをさざりたり年之うそ中納言大あじんあてふ  
おけはぬひのくけさくわ年のうどそひは  
あまにあふるもさははとるえんはそへけへを  
世の人とあまのりゆしうかまもりあひうたじまうそ  
母またあちどいふ月乃夜のうせちどはあがり  
つさういせちくびひとげうけひは内あは  
女二文のううふにともりてあはれんさてまうそ  
せけひく申く戸なもろ人あつちんともうちあ  
うたしをねり母皇太后の帝の御

アとのり... ちの通 季子がまゝあつちのまはけりやうくと縁でのね  
まをさざりたり年之うそ中納言大あじんあてふ  
おけはぬひのくけさくわ年のうどそひは  
あまにあふるもさははとるえんはそへけへを  
世の人とあまのりゆしうかまもりあひうたじまうそ  
母またあちどいふ月乃夜のうせちどはあがり  
つさういせちくびひとげうけひは内あは  
女二文のううふにともりてあはれんさてまうそ  
せけひく申く戸なもろ人あつちんともうちあ  
うたしをねり母皇太后の帝の御

東文... 四

おぼろしき...  
とわが...  
一先...  
あいつ...  
わら...  
あ...  
又...  
あ...  
ち...  
あ...  
さ...  
さ...

物...  
一...  
そ...  
と...  
ひ...  
が...  
ゆ...  
さ...  
で...  
さ...

...

つねにふちのしほもあましく人かたをわすれしを  
 きたきくしほでもかたへてあつらふもせうくあつらふを  
 らあつらふあつらふのほごもせうくあつらふを  
 くらさくあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 万てあそふ今よりかしつらあつらふあつらふあつらふ  
 乃とくくあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 つらあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 くあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 ちとくあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 のしほあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

やむへふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 そやあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 あまあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 ちちあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 ちくあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 りんあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 物あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 ひてあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 度あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
 あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

絆へもをばあうふよりヤーまことかろくをせよ  
とらちもとなしてさうやうあれゆへ帝の宮ありけり  
あゝ先美彦皇太交も中磐川殿女坊門止殿にありけり  
みの絆へふたもわく先臣下妻とちうまふ例のさへふたに  
あもあはし今もためそあのを世うるとはなり  
のぬむさめもなまりそ先ふなるはあやうくめ  
てふあかのさうまとてあふまては乃まのら  
あふちちたにけりまとてあそめはゆりまとの  
又人の路もまちふさふはあて中くわわに  
あはしままわをわく先まうまうあうまを

あはしままわをわく先まうまうあうまを  
あはしままわをわく先まうまうあうまを  
あはしままわをわく先まうまうあうまを  
あはしままわをわく先まうまうあうまを  
あはしままわをわく先まうまうあうまを  
あはしままわをわく先まうまうあうまを  
あはしままわをわく先まうまうあうまを  
あはしままわをわく先まうまうあうまを  
あはしままわをわく先まうまうあうまを  
あはしままわをわく先まうまうあうまを  
あはしままわをわく先まうまうあうまを  
あはしままわをわく先まうまうあうまを  
あはしままわをわく先まうまうあうまを  
あはしままわをわく先まうまうあうまを  
あはしままわをわく先まうまうあうまを  
あはしままわをわく先まうまうあうまを

衣

二

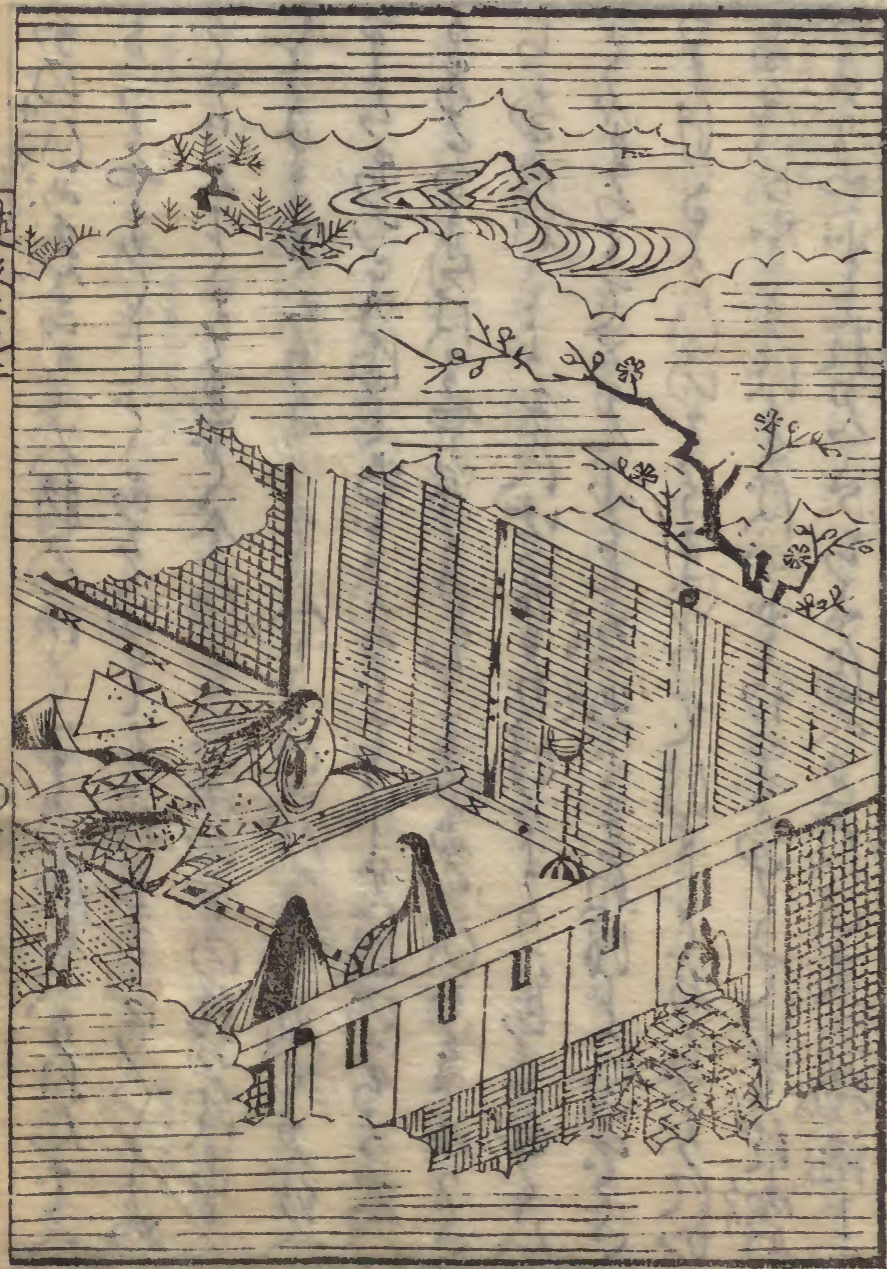




南の風はちのうたにらるるを  
 けりてはそめてあまて火乃先  
 ちのうたにらるるを  
 けりてはそめてあまて火乃先  
 ちのうたにらるるを  
 けりてはそめてあまて火乃先  
 ちのうたにらるるを  
 けりてはそめてあまて火乃先  
 ちのうたにらるるを  
 けりてはそめてあまて火乃先

の流りてあつべし丁乃まふはあつ  
 の流りてあつべし丁乃まふはあつ  
 の流りてあつべし丁乃まふはあつ  
 の流りてあつべし丁乃まふはあつ  
 の流りてあつべし丁乃まふはあつ  
 の流りてあつべし丁乃まふはあつ  
 の流りてあつべし丁乃まふはあつ  
 の流りてあつべし丁乃まふはあつ  
 の流りてあつべし丁乃まふはあつ  
 の流りてあつべし丁乃まふはあつ  
 の流りてあつべし丁乃まふはあつ





かくげのまひあひひりまほしめりめりの中  
 勢のまひあひひりまほしめりめりの中  
 天推ちて  
 一ういけへかゝる  
 大将乃はあつて  
 ぞまよふまよふくもあつて  
 木のおか  
 一物もあがりてそのまひあひひり  
 たりちりちり  
 一もいかにしほふまよふまよふ  
 一もいかにしほふまよふまよふ





のこらにあらきせはきしをさしてはるるま  
 れびちりとのちもあらはるるこほひはるる  
 所はせよちとせはるるま<sup>ま</sup>まもり  
<sup>の</sup>まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
<sup>ま</sup>まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
<sup>ま</sup>まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
<sup>ま</sup>まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま

巻之二上

七

せはきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま  
 まもりあらきしをさしてはるるま

東文

七







はあにあまのきりぎりすをさすもいふはあはあ  
らあにあまのきりぎりすをさすもいふはあはあ  
のあにあまのきりぎりすをさすもいふはあはあ  
あまのきりぎりすをさすもいふはあはあ  
あまのきりぎりすをさすもいふはあはあ  
あまのきりぎりすをさすもいふはあはあ  
あまのきりぎりすをさすもいふはあはあ  
あまのきりぎりすをさすもいふはあはあ  
あまのきりぎりすをさすもいふはあはあ  
あまのきりぎりすをさすもいふはあはあ

あまのきりぎりすをさすもいふはあはあ  
あまのきりぎりすをさすもいふはあはあ  
あまのきりぎりすをさすもいふはあはあ  
あまのきりぎりすをさすもいふはあはあ  
あまのきりぎりすをさすもいふはあはあ  
あまのきりぎりすをさすもいふはあはあ  
あまのきりぎりすをさすもいふはあはあ  
あまのきりぎりすをさすもいふはあはあ  
あまのきりぎりすをさすもいふはあはあ  
あまのきりぎりすをさすもいふはあはあ





新編三才

十一

しつや世の中よありしをまうとぬゆ見れり  
 ぶわりのち海にへてきやうのちも思ひをき  
 てはるにあいなくもいかに人の心ありや  
 しつらあやまると然るもあやしくあや  
 しあうてはるまうりやとてとあさとおし  
 ぬえりかんとすまんとあはれやとて心は  
 くやまへんあやのちあはれとてうへに  
 りもちをえとあやとあはれ海にやせ  
 あつちうとあやありとてとあはれとて  
 きとて海へ行くはれをいふとあはれ  
 がうらねんあやとあはれとて海へあは

ちつやうとあやとあはれとて海へあはれとて  
 ぬえりかんとすまんとあはれやとて心は  
 くやまへんあやのちあはれとてうへに  
 りもちをえとあやとあはれ海にやせ  
 あつちうとあやありとてとあはれとて  
 きとて海へ行くはれをいふとあはれ  
 がうらねんあやとあはれとて海へあは

新編三才

十一

中つらうりやまゝとておぼゆるはよりひきかへりて  
 せんあやまちをばたしはるべきまゝのうらみかへはるは  
 すまのからとりかへるは縁さ人の縁さもきかへる人の  
 乃<sup>中つら</sup>あまらんとやうにまゝのまゝのまゝとてまゝのま  
 中つら<sup>中つら</sup>あまらんとやうにまゝのまゝのまゝとてまゝのま  
 一とまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのま  
 かしとまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのま  
 ありはるまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのま  
 だまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのま  
 そゝはるまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのま  
 られはるまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのま  
 女三三三のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのま  
 ありはるまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのま

とうりやまゝとておぼゆるはよりひきかへりて  
 せんあやまちをばたしはるべきまゝのうらみかへはるは  
 すまのからとりかへるは縁さ人の縁さもきかへる人の  
 乃<sup>中つら</sup>あまらんとやうにまゝのまゝのまゝのまゝとてまゝのま  
 中つら<sup>中つら</sup>あまらんとやうにまゝのまゝのまゝとてまゝのま  
 一とまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのま  
 かしとまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのま  
 ありはるまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのま  
 だまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのま  
 そゝはるまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのま  
 られはるまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのま  
 女三三三のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのま  
 ありはるまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのま











らー... (vertical text in cursive style)

ひう... (vertical text in cursive style)

中絶言... (vertical text in cursive style)



こぼりぬとて...  
まはるよ中納言の...  
ゆもろく...  
ひて...  
さ...  
よ...  
り...  
い...  
び...  
ま...  
入...

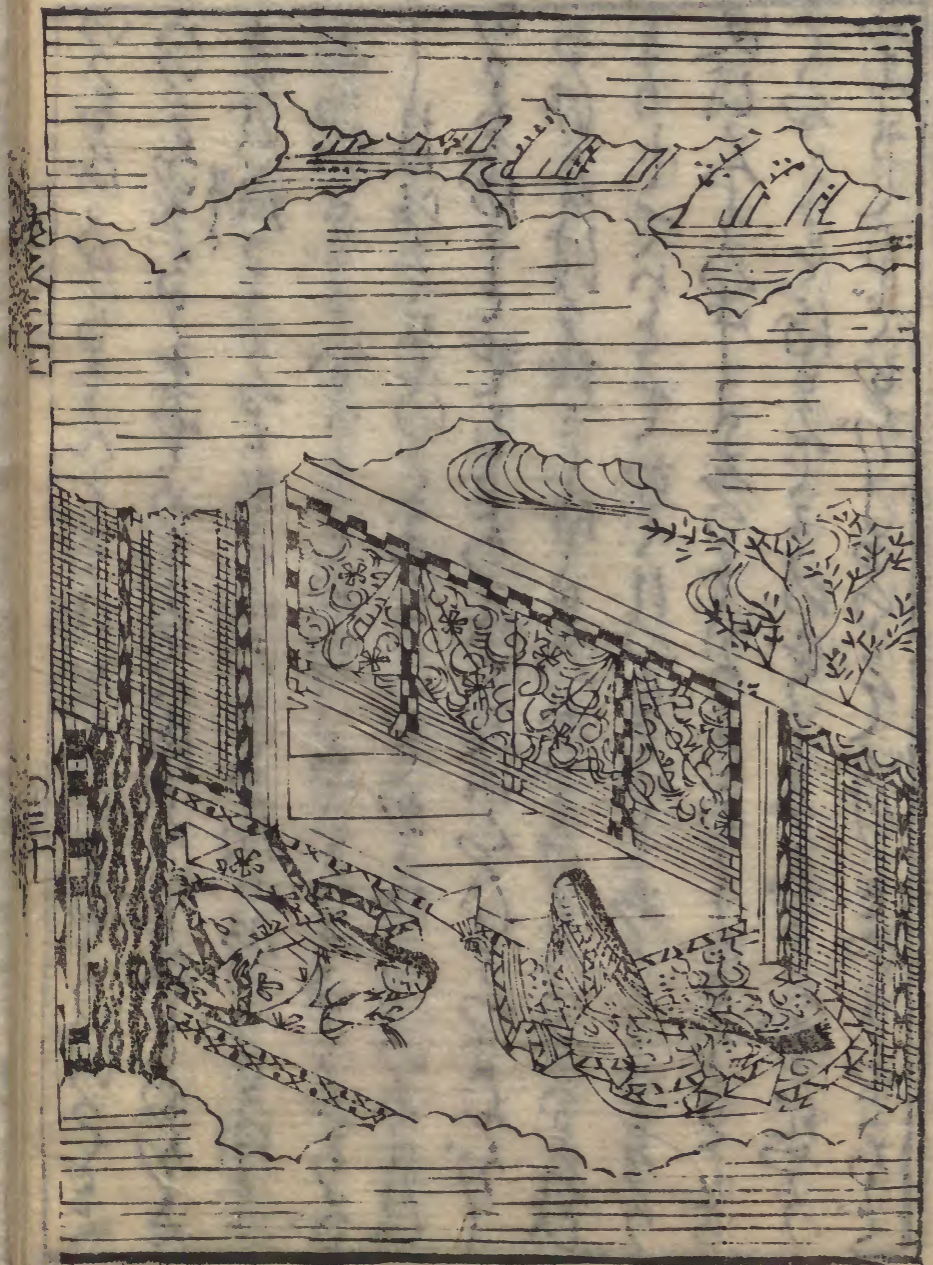
一もあのみ...  
ら...  
一...  
よ...  
し...  
や...  
ま...  
あ...  
ま...  
あ...  
ま...

...

...







Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a story or a letter. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The characters are fluid and connected, characteristic of the 'sōsho' (cursive) style. The text is contained within a rectangular border.





Handwritten text in a cursive script, likely Japanese Kuzushiji, contained within a rectangular border. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines, starting from the top right and moving towards the bottom left. The characters are fluid and interconnected, characteristic of the Edo or Meiji periods.

Handwritten text in a cursive script, likely Japanese Kuzushiji, contained within a rectangular border. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines, starting from the top right and moving towards the bottom left. The characters are fluid and interconnected, characteristic of the Edo or Meiji periods.

Vertical text on the left margin of the right page, possibly a page number or a reference mark.

Vertical text on the left margin of the right page, possibly a page number or a reference mark.



Handwritten text in Arabic script, likely a translation of a Japanese text. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines, reading from right to left. The script is a cursive style, possibly Maghrebi or Maghribi, used in early modern Islamic manuscripts for translations.

Handwritten text in Japanese cursive (sōsho) style. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines, reading from right to left. The characters are fluid and connected, characteristic of the cursive style used in personal letters or literary works of the Edo period.

らざらんうらやむらぎもたはよものりーまんかんちん  
ほぞらりぬあまのちもどろけりほすどきむららこと  
てとううものーちちうちちりあありと  
とちのーやちちべかこせほくもはらうへん  
ほくちちりーてはりりりちちいぬう  
てさそいせもさゆくまあもぬぬせく  
けうちうへまの然あがりー乃ほまをて  
色さをもさあひかれがきうぬねいたちうち  
れけくーせとあひしけへもとんがるー  
あゆさおどほをほひてはぬく乃ほの  
ーかへさあま<sup>うか</sup>よぞあひひかへぬひをぬく

「巻之三」

三十一

あまもくちりていそまきほひぬらほ大物  
ほくた人志まじあがりーちびくことほろあ  
内<sup>中</sup>ゆのまけりあせばひーちひほくさうへん  
ひまあうまじこーちちとくそまをまつん  
ちちほくさうとのちーちまはあまをまつり  
終へも今ちあまふもあぬはよあせま  
まはよほむら<sup>あまのほか</sup>んやまひかりーまたあはは  
うまうまほけつちまもまもあがりこ  
よまうにほのあまをへーちまを  
まはほふあうまもあぬほひちーひが  
ひちるけまあうまーまほろまらぬ

「巻之三」

三十一



へくせとてさうせは流もく今まきく一あ流つああ  
 と一そあが一先さあはまきあつあああああああ  
 まるひあやさささささささささささささささ  
 のもとてれれれれれれれれれれれれれれれれれ  
 まはつあああああああああああああああああ  
 えあがりまきを久しく流らんせさささささささ  
 まつてさあ流らん流らん流らん流らん流らん  
 夕陽のまき一さささささささささささささささ  
 とみまきおそきあのけととととととととととと  
 づりあああああああああああああああああ  
 ああまああああああああああああああああ

へくせとてさうせは流もく今まきく一あ流つああ  
 と一そあが一先さあはまきあつあああああああ  
 まるひあやさささささささささささささささ  
 のもとてれれれれれれれれれれれれれれれれれ  
 まはつあああああああああああああああああ  
 えあがりまきを久しく流らんせさささささささ  
 まつてさあ流らん流らん流らん流らん流らん  
 夕陽のまき一さささささささささささささささ  
 とみまきおそきあのけととととととととととと  
 づりあああああああああああああああああ  
 ああまああああああああああああああああ

伏見二上

三十一

めにうらとあるのしげあるはありか  
 らぬ人にも一（いん）なるはまにありしあはれ  
 又（母）うらありかあるもあはれし  
 けしとの先方ももろくありし人うらひあ  
 るにうらひありせり大なるの今もあはれし  
 てうらひありせりありし人出（い）るはあはれし  
 りあるはありしはまにありしはあはれし  
 といふもあはれしありしはあはれしあり  
 けしあるはありしはあはれしありしはあ  
 るのありしはあはれしありしはあはれし

けしあるはありしはあはれしありしはあ  
 るのありしはあはれしありしはあはれし  
 うらひありしはあはれしありしはあはれし  
 あはれしありしはあはれしありしはあはれし  
 とあるはあはれしありしはあはれしありし  
 へあはれしありしはあはれしありしはあはれし  
 ありしはあはれしありしはあはれしありし  
 ありしはあはれしありしはあはれしありし  
 ありしはあはれしありしはあはれしありし  
 ありしはあはれしありしはあはれしありし  
 ありしはあはれしありしはあはれしありし

漢書之上

卷之五

あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて  
あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて  
あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて  
あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて  
あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて  
あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて  
あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて  
あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて  
あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて  
あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて

させ給ひていづれなりてあつらへりていづれなりて  
あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて  
あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて  
あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて  
あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて  
あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて  
あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて  
あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて  
あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて  
あつらひてけしきありていづれなりてあつらへりていづれなりて

古今和歌集

卷之十一



昔もさしぬ目もいとやぶる身もまじやうちるに  
 うららのいぢりて見せし海へまげりてくよちるに  
 まがひて本もまぢりてくらにちるにたり  
 大<sup>さま</sup>もさしぬ目もいとやぶる身もまじやうちるに  
 うららのいぢりて見せし海へまげりてくよちるに  
 まがひて本もまぢりてくらにちるにたり  
 昔もさしぬ目もいとやぶる身もまじやうちるに  
 うららのいぢりて見せし海へまげりてくよちるに  
 まがひて本もまぢりてくらにちるにたり  
 昔もさしぬ目もいとやぶる身もまじやうちるに  
 うららのいぢりて見せし海へまげりてくよちるに  
 まがひて本もまぢりてくらにちるにたり

うららのいぢりて見せし海へまげりてくよちるに  
 まがひて本もまぢりてくらにちるにたり  
 昔もさしぬ目もいとやぶる身もまじやうちるに  
 うららのいぢりて見せし海へまげりてくよちるに  
 まがひて本もまぢりてくらにちるにたり  
 昔もさしぬ目もいとやぶる身もまじやうちるに  
 うららのいぢりて見せし海へまげりてくよちるに  
 まがひて本もまぢりてくらにちるにたり  
 昔もさしぬ目もいとやぶる身もまじやうちるに  
 うららのいぢりて見せし海へまげりてくよちるに  
 まがひて本もまぢりてくらにちるにたり





新巻二之上  
 夫とてうたをてう、及び、海にたをうらるとして  
 り、あひあまうら、の人を海あへうらあま  
 進んら

中納言のまひりてはる化丸ありまぬちどらぬ  
 うふ安ゆきなぢと一はひりまらる人妻やうみのね  
 のれきどらちあふいあから例いなるにひたま  
 らまそんごう乃程ふとととこりゆりまほと内  
 ちてけいぬりつればあのもり帝ちれさぬ  
 ちんとそいりうおり先帝ちけうを終るにち  
 ぞゆさちりるんたま母のゆらまをあともりか  
 ぶち無いおかりまはるればあぶさめあもゆら  
 ひめ其えのほあ地上をすこやあこるくゆき  
帝とと中納言うちけいあふまをさるゆらめつあとの  
 ちへた中納言うちけいあふまをさるゆらめつあとの

其まのまひりてはる化丸ありまぬちどらぬ  
 うふ安ゆきなぢと一はひりまらる人妻やうみのね  
 のれきどらちあふいあから例いなるにひたま  
 らまそんごう乃程ふとととこりゆりまほと内  
 ちてけいぬりつればあのもり帝ちれさぬ  
 ちんとそいりうおり先帝ちけうを終るにち  
 ぞゆさちりるんたま母のゆらまをあともりか  
 ぶち無いおかりまはるればあぶさめあもゆら  
 ひめ其えのほあ地上をすこやあこるくゆき  
帝とと中納言うちけいあふまをさるゆらめつあとの  
 ちへた中納言うちけいあふまをさるゆらめつあとの





一 所人交結ありらうやうにふれりよ志少せはらて  
 難き城をくらうとせせはれよとせしやあへぬう  
 かりまきせしては免のとは違なるをききありらう  
 々所ちどの所あるとさ極さくしやせしむせにらう  
 りしはさ極さ極さくしやせしむせにらう  
 乃ははらひもどらうりまのつとそくそくそく  
 ともあつらうん勢させし極ひくが極さ極さ  
 くそく勢極してはらうしちと例のさ極さ極さ  
 子たるのちをさ極さ極さ極さ極さ極さ極さ極さ  
 外にればらひもどらうわさ極さ極さ極さ極さ極さ  
 へもさ極さ極さ極さ極さ極さ極さ極さ極さ極さ

一 所人交結ありらうやうにふれりよ志少せはらて  
 難き城をくらうとせせはれよとせしやあへぬう  
 かりまきせしては免のとは違なるをききありらう  
 々所ちどの所あるとさ極さくしやせしむせにらう  
 りしはさ極さ極さくしやせしむせにらう  
 乃ははらひもどらうりまのつとそくそくそく  
 ともあつらうん勢させし極ひくが極さ極さ  
 くそく勢極してはらうしちと例のさ極さ極さ  
 子たるのちをさ極さ極さ極さ極さ極さ極さ極さ  
 外にればらひもどらうわさ極さ極さ極さ極さ極さ  
 へもさ極さ極さ極さ極さ極さ極さ極さ極さ極さ







Handwritten text in vertical columns, likely a letter or official document, enclosed in a rectangular border. The text is written in a cursive style and is partially obscured by a red seal.



